



豊かな経験を社会に



陶芸の パイオニア

町中の中島治さんは、学校
在職中美術の教師であったた
けに陶芸の方にもなかなか造
詣が深い。陶芸
用の窯を町が購
入するといちは
やく自費で窯元
で勉強され、以
来陶芸教室の指
導者として受講
者の信望をあつ
めておられる。
先日本俣市で
開かれた都市老
友会作品展で、
本人を始め数多
く入賞した。

今様 花咲じいさん

古中尾の山崎直次郎さんと
云えば花づくりの名人として
県下はもとより、全国表彰も
うけておられる方である。



ムクゲ、肥後しようぶ、肥後
菊など種類も多いが今年も朝
顔を育てて配っておられる。
老友大学ではシャクナゲの
育て方を指導中で、穂木の世
話は勿論、種からの育苗にも
成功して今約一萬本の苗が育
っている。(Y)

津奈木

前は乃活

発行所
津奈木公民館
津北郡津奈木町
電話(代表)3111番
編集 編集委員会
印刷所 旭印刷所
電話(水保)4101番



ゲートボールの 普及こそ生きがい

赤崎小学校の上の吉野安馬
さんは、津奈木ゲートボール
協会の審判部長である。
その吉野さんがゲートボ
ールのスティック作りの名人と
いうことで仕事を訪ねてみ
た。ちょうど、スティックの
柄の取付けのまっ最中だった。
製作の工程を聞いたが、さす
がに専門家である、幾何学的
によく計算しておられる。
「わたしのスティック作り
は商売じゃありません。ゲ
ートボールの普及が目的です
たい。これも買えばバカにな
りませんでな、勿論修繕も
してあげとります。」

ひらひら じっくり 考えてみたい

オーストリアのウィーンの
森に写真の可愛い少女がいた
ので日本人観光客が写真をと
って、五十円玉を差し出すと
「理由なくお金はもらえない」
と取ろうとしない。それで
はと日本の絵葉書を差し出す
と「見知らぬ人から物をもら
ってはいけないと教えられた
から」と目もくれず断った。
これには皆、ハッ!として
黙ってしまった。このよう
な事を各地で見るとこれ私
は欧州の学校と家庭の教育に厳
しさと思慮深さを感じつつ
日本の子供に理由なく金品を
与えている事を考えさせられ
た。物が豊かな上に宣伝等で
物品がもらえる事に慣れてし
まい当然と思ひこむ現代、特
に将来に育つ子供の為に私
たち成人はどこに気をつけな
ければならないかを、じっくり
考えてみたい。(Y)

敬老の日になんで

三味線教室の お師匠さん

若い日の技術と経験を生か
して今なお社会に奉仕してお
られる方々を特集しました。
この人達の人生のあゆみに
対して心から敬意を表し、後
輩たる私どもは又その生きざ
まを承継する義務があるのだ
はないでしょうか。今後一層
の御精進を祈ります。

雨は降る降る
人馬はぬれる
越すに越されぬ田原坂
さる夏の日の午後、赤崎公
民館の二階から三味線の音が
聞こえていた。赤崎老友会演

英グループの三味線の練習で
ある。お師匠さんは日添の佐
々木ヨノさん。
お師匠さんを中心に十数名
の御婦人たちがバチさばきも
鮮やかに稽古に余念がない。
昨年は課題曲十一曲、自由
曲数曲を上げられたとか。
「今後は三味線のほか歌、
演劇にも取りくみたい」とた
だ一人の男の生徒、緒方洋さ
んは語っておられた。

津奈木の芸術



夕陽の秋

写真を始めたのは、昭和二
十二年からで、もう三十三年
もカメラを手にしていること
になる。
この写真はまだ干拓が出来
ない津奈木湾の夕景で、波が
作り出した自然の造形の中で
無心に遊ぶ子供たちをねらっ
たものです。当時は自然の中
で遊び育つたものだから、そん
な自然があつた事がなつかしい。
又、写真もカラーでなく白
黒だった。自然を白黒に置き
換えて光の美しさを追求する
りながら、闇をすかしてよく
見ると、徳利をアラ下げた人
間のようなのがつつ立って
いる。
庄やんは、「なる程、柳道
には昔から、おとら狸と云う
のことがよく化けて出たちゆう話
ば聞いたが?」と口の中でア
ツツ云うていると「今も出
るばい」と云いながら近寄
つて来た。よく見ると、それ
は大きな古毛狸であった。
吉毛狸は一平徳利を庄やん
の鼻先に差し出しながら「庄
やん、おどろかしてすまん、
一丁飲うで下はり」と云う。
酒が何よりも好きな庄やん
よと肩にひっかけて歩いて歩
出した。
もの五百米ばかり来たか
と思ふ頃、後の方から「庄や
ん、庄やんとおとらが呼ぶの
で、「まだ生きとったか、今度
ア、きつう締めて息の根は止
めちやる」と云いながら、ど
しんと地面に放り出すと、お
とらが、じつと庄やんを見
ながら、いかにも悲しそうな
声で「庄やん、庄やん、あん
た」と手を拍って立ち上った。
庄やんは、腰の手ぬぐいを、
おとらの首に巻きつけて、ぐ
いと一締めして、どっこいし
学校にご寄贈がありました。

午後七時半、続々と
つめかける老若男女、
中には、となり部落の
人の顔も見える。スピ
ーカーは絶えず音楽を
流し、雰囲気盛り上
げている。
午後八時、小嶋公民

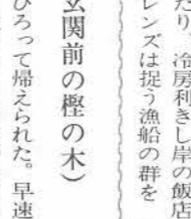


寄贈お礼

伊藤祥子さん(浜崎伊藤一
吉氏長女)から、就職の報告
を兼ね金一封を、津奈木小:
中

名木紹介(役場 玄関前の檜の木)

昭和三年、現在の天皇の即
位札(御大典)に当時の村長
六車茂一郎さんが参列され、
翌年の春植付けられた苗を、
この日を記念するため、掃路
伊勢神宮に参拝し、檜の実を
てている。



肥後狂句 堀双岳選

(順不同)
泣くな、また来年頭張ろう
重き、提げてかろうて辻の坂
泣くな、隣近所に聞こゆるぞ
重き、中はおはぎか赤飯か
泣くな、今度の霜はこまかつた
重き、欲ばり婆の大包み
川子
泣くな、あんな一人が後家で無ア
重き、有難も無ア夏みかん
泣くな、自分で蒔いた種だらうが
重き、女子は尻の太かけん
双岳
あア痛ッ。取れん。各二句、九月末まで公民館へ。
初めての人は住所氏名を記入して下さい。(係)

牛の浜海岸に遠き鳥影を望む
ひろびろと夏雲映ゆる海の際、雲霞の中に颯鳥見ゆ
はろばろと地球のふちを吾見たり、冷房利きし岸の飯店
思ひきや霞の中に船ありて、レンズは捉う漁船の群を

